

平成26年度市民活動支援センター
市民活動に関するアンケート調査結果報告書

平成28年3月

調布市市民プラザあくろす市民活動支援センター

I はじめに

市民活動支援センターは、平成17年2月に開設以来「自立した市民社会の創造」をミッションに市民が自ら主体的に社会参加し、市民活動を行う「市民が主役のまちづくり」を目指し、多様な市民活動を支援する拠点として、様々な取組を行ってきた。

平成24年に策定した「市民活動支援センター中長期運営方針（ビジョン）」では、一人ひとりの市民が責任をもって発言し行動する「自立した市民」による多様な活動の展開が、調布のまちを豊かにし、課題解決に向かって市民自らが関わってまちを創造していくという考え方と、市民参加をバックアップする視点で「人づくり」と「横のつながりづくり」を進めていくことが重要と位置付け、その実現に向けセンター事業を中長期活動計画の形で整理し、個々の活動に取り組んでいる。

調布市では、調布市基本構想に掲げたまちづくりの実践にあたっての3つの基本的な柱（「市民が主役のまちづくり」「市民のための市役所づくり」「計画的な行政の推進」）として、「行革プラン2013」を策定し、施策を推進している。

同プランでは、「参加と協働のまちづくり」の推進にあたり、「参加と協働の推進のための環境整備」の1つとして、「市民活動・地域コミュニティ活動を促進するための支援の充実」に向け「市民活動支援センター機能の充実等」を取組に挙げている。

市民活動支援センターが、多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら市民の主体的・公益的な活動を支援していくうえで、市民活動に関する意向や参加の状況、センターへの期待等を把握し、センターの取組に生かしていくことを目的に、平成27年3月に「市民活動に関するアンケート調査」を実施した。

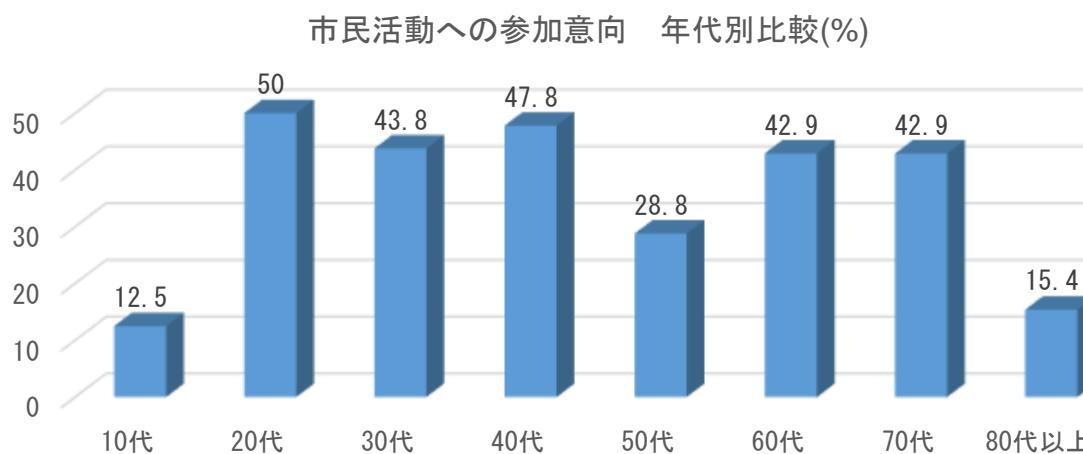
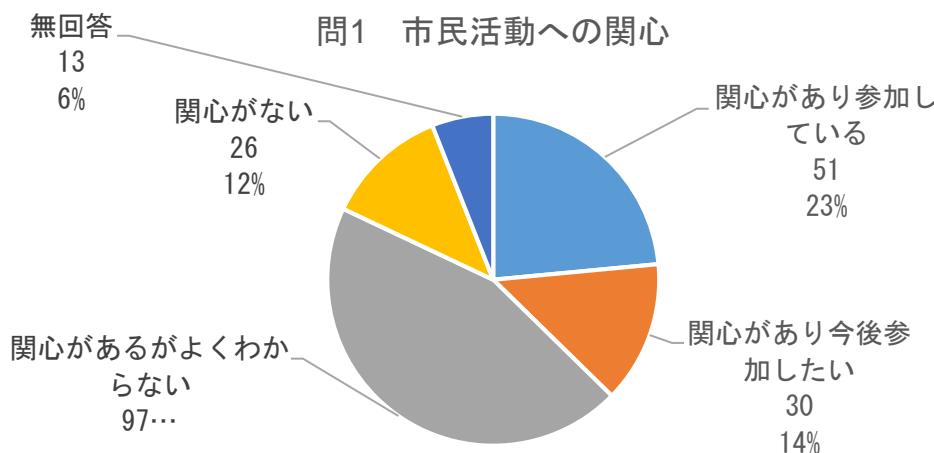
II 調査の概要

期間	平成27年3月9日～3月27日
対象	① 平成27年1月1日現在、市内にお住まいの16歳以上の市民（無作為抽出500人） ② 調布市の市政モニター（80人） ③ 市民活動支援センター来場者 ④ 当センターホームページで本調査事業に関心をもった方
手法	郵送若しくは窓口配布、当センターホームページによるアンケート調査
回答数	217（無作為郵送88、インターネット回答35、センター利用者回答54、市政モニター40） ① 性別：男性：117人 女性：87人 不明：13人 ② 年齢：10代：8人 20代：14人 30代：16人 40代：46人 50代：45人 60代：35人 70代28人 80代以上：13人 不明：12人 ③ 職業：自営業・自由業：29人 会社員・公務員・団体職員：70人 学生：10人 専業主婦（夫）：20人 パート・アルバイト：25人 無職：42人 その他：7人 不明：14人

	<p>④ 市内在住年数：1年未満：4人 1~10年：38人 11~20年：37人 21~40年：58人 41年以上：42人 市外：21人 不明：17人</p>
内容（項目）	市民活動への関心、調布のまちへの愛着、関心のあるテーマ、活動歴、参加状況、情報収集方法、参加のきっかけ、今後の地域や社会との関わり方、当センター・ブランチの利用状況や期待する機能、当センターの情報発信について、コーディネーターへ期待すること他

III 各設問別回答結果

問1 他の人や社会のために自ら進んで活動するボランティアやNPOなど市民活動に関心がありますか。

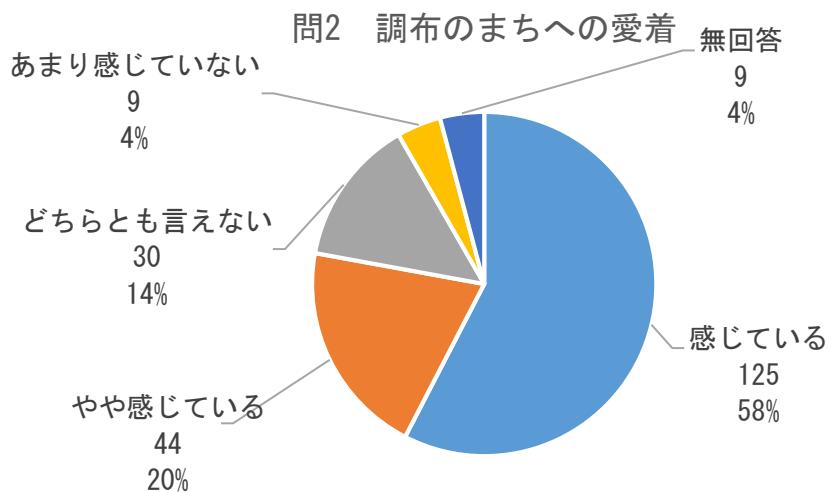


【考察】

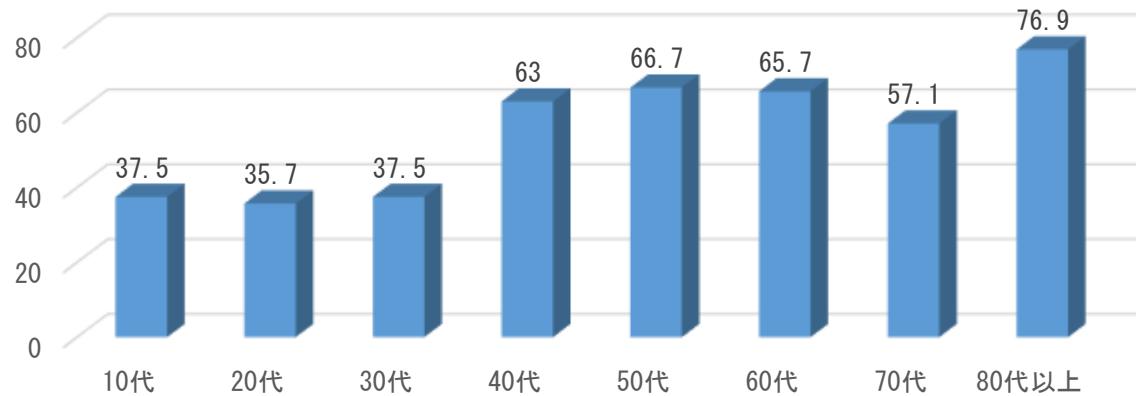
- 平成26年1月に内閣府が実施した「社会意識に関する世論調査」によると、65.3%の人が「日頃、社会の一員として何か社会の役に立ちたいと思っている」と回答している。今回の回答結果で、「関心があり参加している」23%と「関心があり今後参加したい」14%と合わせると37%と世論調査より低い結果となっているが、「関心があるがよくわからない」45%の回答者の中には「何か社会の役に立ちたい」と考えている人が少なからずいるのではないかと推察する。
- 「関心があるがよくわからない」人に向けて、市民活動をわかりやすく伝え、参加につなげられるかが今後の課題の1つである。

- ・市民活動への参加意向の年代別にみると、10代と80代の割合が低い結果となっている。回答数の少なさも考慮する必要があるが、特に10代の参加意向をいかにして高められるか。
- ・職業別での比較では、女性のパートと専業主婦（夫）が他と比べ、「関心がない」と回答している割合が高い。（共に約33%）逆に女性会社員と男性自営業者は「参加している」「今後参加したい」の回答が他と比べ高い（50～57%）
- ・調布市内の地域別の傾向は問1同様、分母が少ないとともあり把握が難しい。

問2 調布のまちに愛着を感じていますか。



問2 調布のまちへの愛着 年代別傾向(%)



【考察】

- ・調布のまちへの愛着を「感じている」58%、「やや感じている」20%と、全体の4分の3が愛着を感じている結果が出た。まちへの愛着の割合78%と問1の市民活動への参加意向の割合37%に開きがあることから、調布のまちへの愛着をどう市民活動につなげていけるかが課題である。
- ・年代別での傾向を見ると、10代・20代・30代が他の世代と比べ低い傾向が見られる。“若者世代”的まちへの愛着を高めるために、当センターに何ができるかを考えていく必要がある。
- ・職業別での比較では、問1で市民活動への関心が他職種と比べ低かったパート・専業主婦も「感じている」「やや感じている」を合わせると8割を超えている。
- ・在住年数とまちへの愛着の関係は、概ね在住年数が長くなるほど愛着が深まる傾向が見られる。
- ・調布市内の地域別の傾向は問1同様、分母が少ないとともあり把握が難しい。

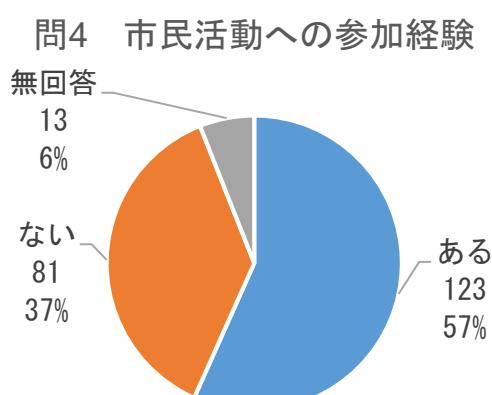
問3 現在、地域や社会の話題やテーマで関心のあることはどんなことですか。

(別紙参照)

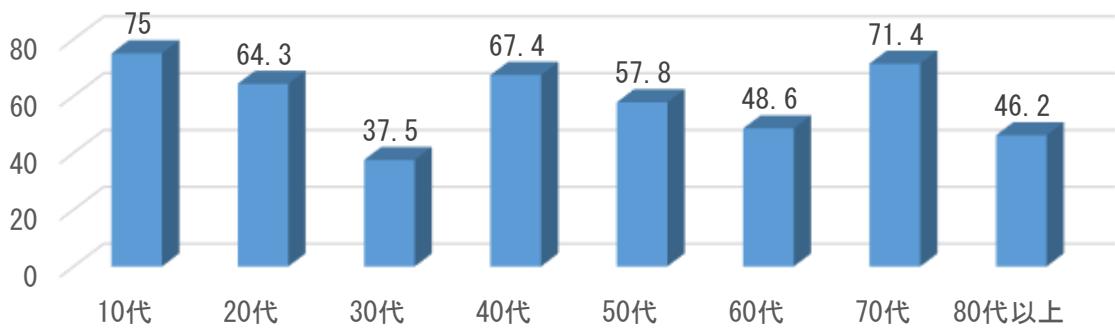
【考察】

- ・調布駅前再開発への関心は、幅広い年代で挙がっている。
- ・いかにして子どもが安心して暮らせるかへの関心は、子育て世代を中心に比較的幅広い年代で挙がっている。
- ・災害対策についても、幅広い年代で関心事に挙がっている。
- ・40代以降の世代では、介護や健康のこと等高齢化に関連したテーマが関心事に挙がってきている。
- ・調布の自然や環境美化への関心も、幅広い世代で挙がっている。
- ・40代以降の世代では、人とのつながりへの関心事が挙がっている。

問4 これまでに市民活動に参加したことがありますか。(募金・寄付なども含む)



問4 市民活動への参加
経験 年代別傾向(%)

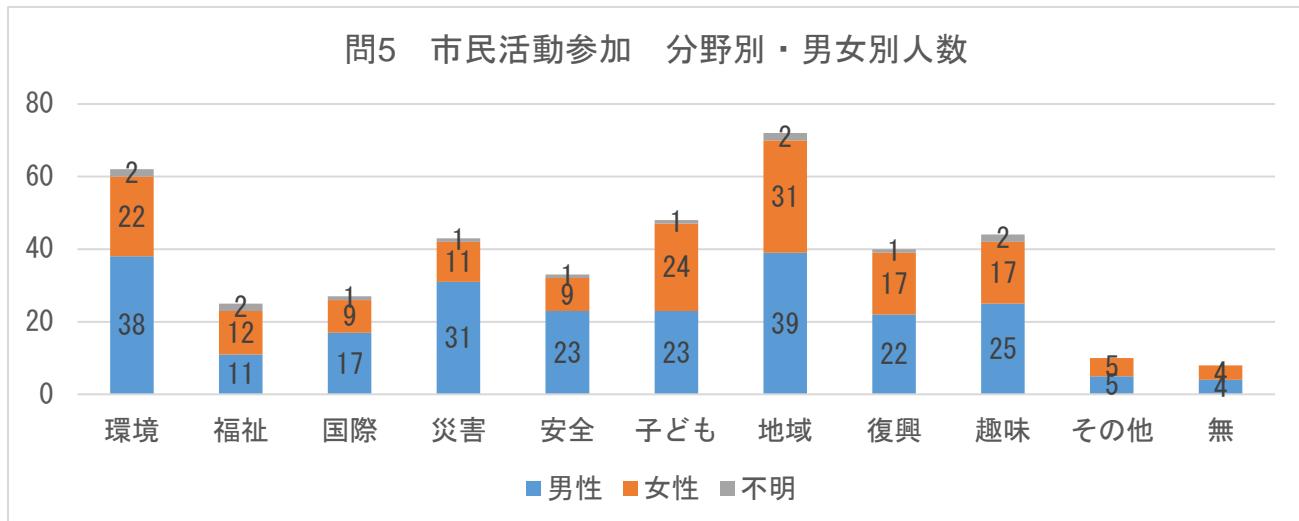


【考察】

- ・37%の人が市民活動への参加経験がないと回答している。問1で市民活動について「関心はあるがよくわからない」と回答している人が45%いることから、実際には地域活動等に参加しているが「市民活動に参加した」と捉えていない人もこの中に含まれていると推察する。
- ・30代の参加経験の割合が低い要因について掘り下げる必要がある。
- ・在住年数での傾向を見ると、男女とも在住年数1~10年の人は「ない」が「ある」を上回っている。他の在住年数は「ある」が「ない」を上回っているか同数となっている。調布で暮らし始めて比較的浅い年数の人たちが、調布のまちを知り愛着を深め、人とつながり活動に参加するきっかけづくりをどう作っていくか。

- 職業別では、専業主婦（夫）の「なし」が「あり」を上回っている。専業主婦（夫）は問1市民活動への関心についても「関心がない」割合が他の職業より高い結果となっているが、経験の機会が増えることで関心が高まる可能性もある。

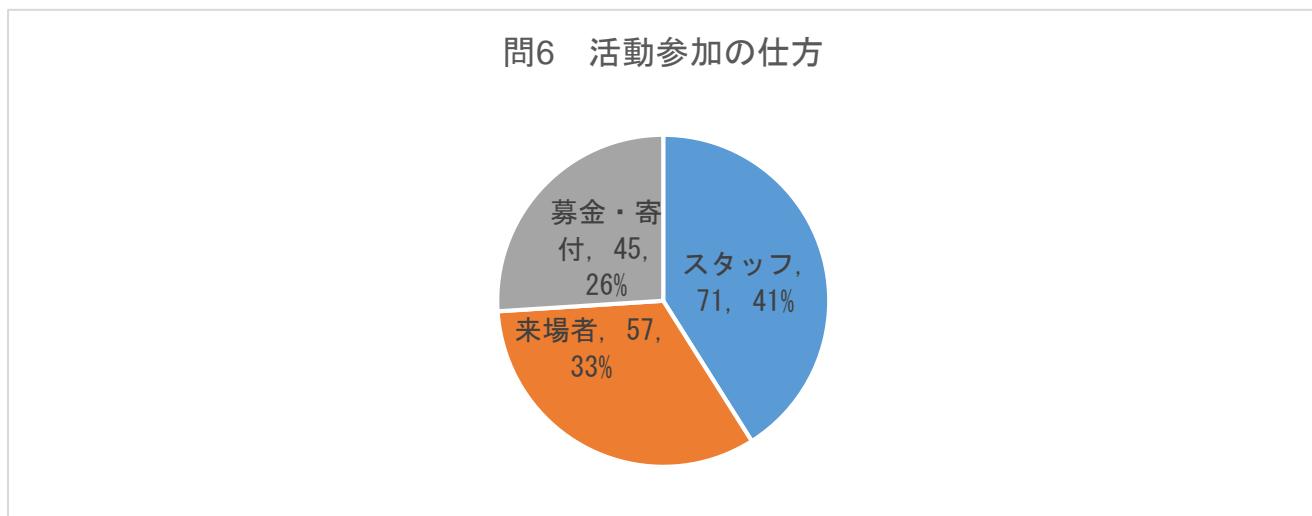
問5 問4で「ある」と答えた方はどのような活動ですか。あてはまる市民活動に✓をつけてください。また、問4で「ない」と答えた方は、これから参加してみたい活動、これならできると思う活動に✓をつけてください。[複数回答可]



【考察】

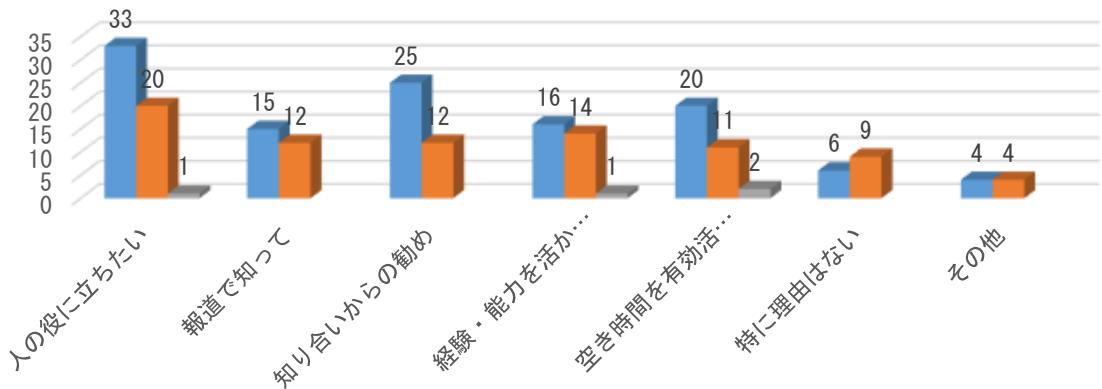
- 「地域行事やイベントのお手伝い」が72人と最も多い、次いで「環境」62人、「子ども」48人の順となっている。
- 当センターでのボランティア募集等での情報発信は「福祉」的な活動が多い傾向にあるが、前述の傾向を勘案し、今後情報発信に生かしていく必要がある。
- 「趣味や特技を活かした活動」も44人と比較的多い。当センターにもサークルが多く利用されているので、「趣味の社会化」の視点でのアプローチを継続していくと共に、今後も生涯学習情報コーナーと連携しながら支援していきたい。

問6 【問4で「ある」と答えた方】にお尋ねします。活動の参加の仕方について教えてください。[複数回答可]



問7 【問4で「ある」と答えた方】にお尋ねします。問5で選択した活動に参加したきっかけを教えてください。[複数回答可]

問7 活動参加のきっかけ

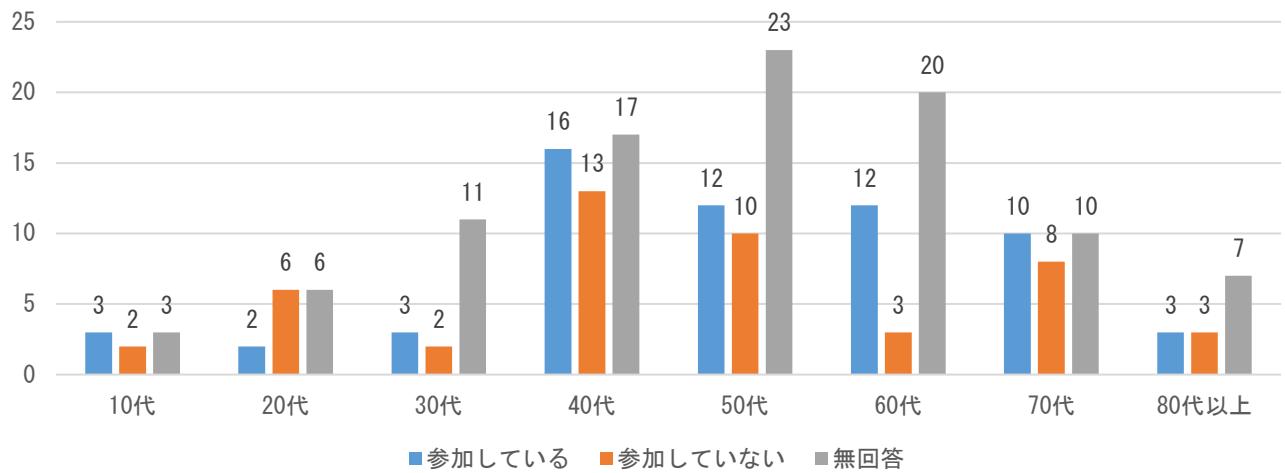


【考察】

- 文部科学省「ボランティア活動を推進する社会的気運醸成に関する調査研究報告書」によると、「自治会や子ども会など地域の団体で参加する機会を与えられたこと」がきっかけで参加した人の割合が、「自発的な意思」に次いで多い結果が出ている。(33%) 当センターでは調布サマーボランティア等中学生以上のボランティア活動体験プログラムを実施しているが、自治会や子ども会等も活動体験先の1つとして連携していくことも検討する必要があると思われる。

問8 【問4で「ある」と答えた方】にお尋ねします。問5で選択した活動に現在も参加していますか。

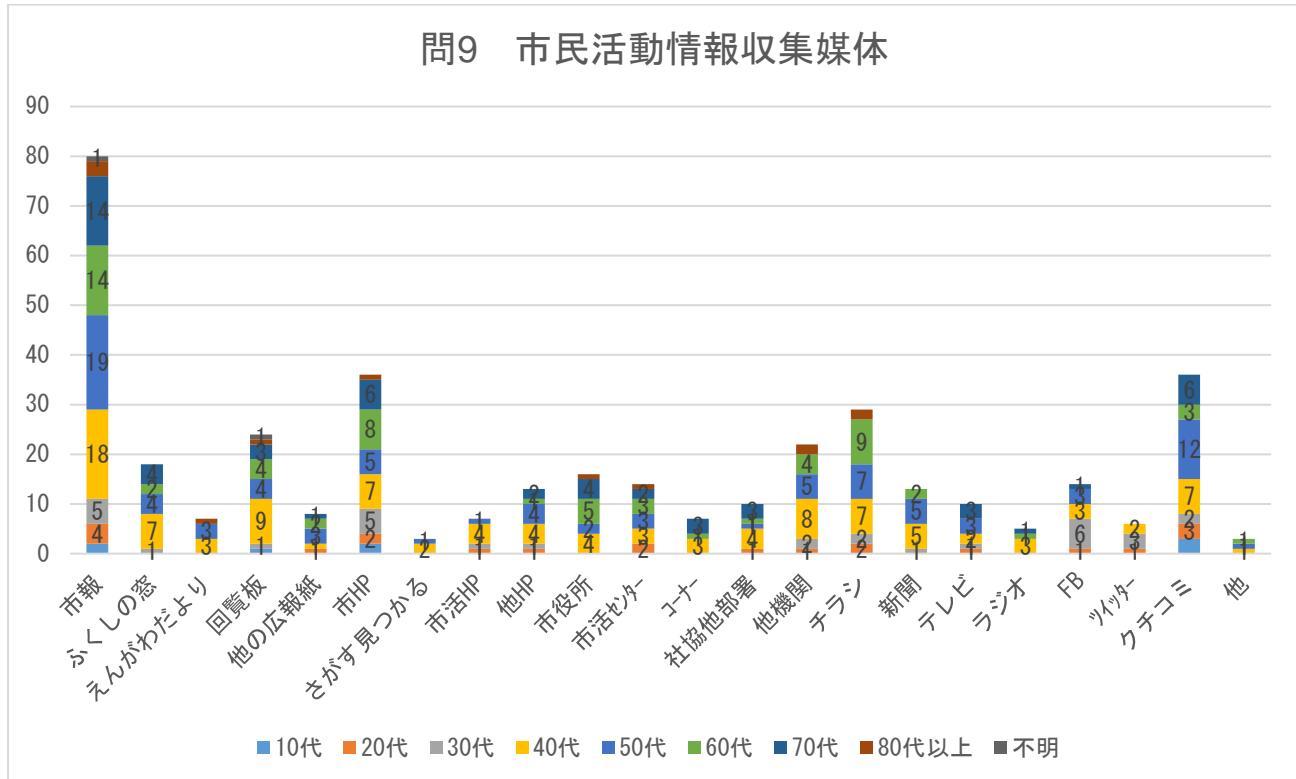
問8 現在の活動参加状況



【考察】

- 20代を除く全ての世代で「参加している」の人数が同数もしくは若干上回っている。

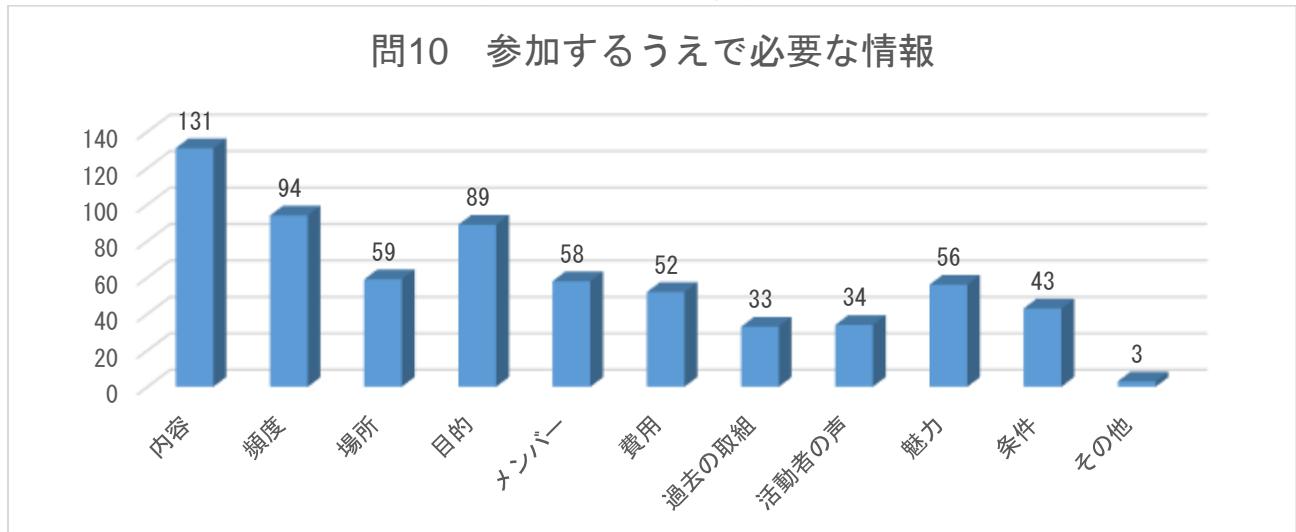
問9 市民活動に参加したことがある方はどのような方法で情報を得ましたか。また、「これから参加したい」とお考えの方はどのような方法で情報を得ようと思われますか。当てはまる内容に✓をつけてください。[複数回答可]



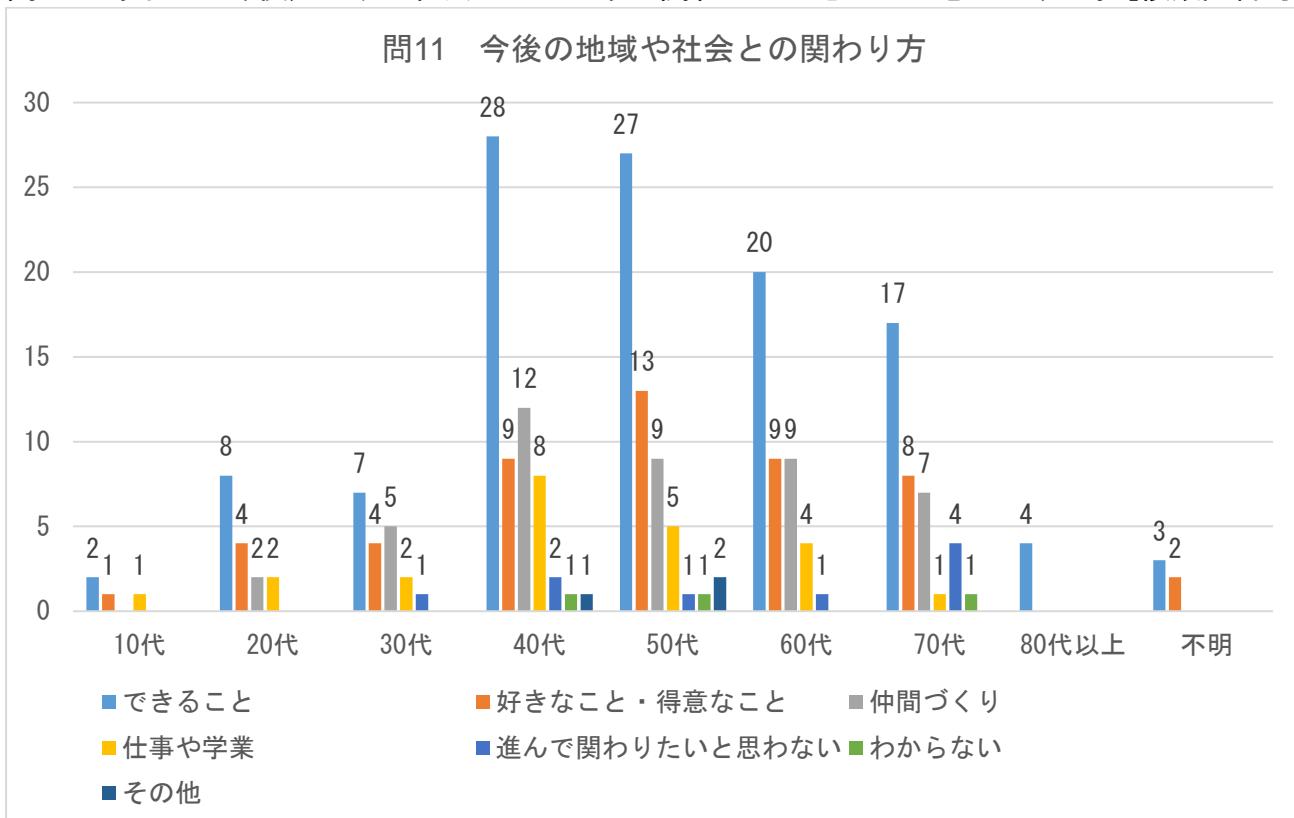
【考察】

- 10代はクチコミ(3人)、20代は市報(4人)、30代はfacebook(6人)、40代は市報(18人)、50代は市報(19人)、60代は市報(14人)、70代は市報(14人)、80代は市報(3人)と市報から情報を得る人が多い結果となっている。

問10 市民活動に参加したことがある方も、「これから参加したい」とお考えの方も、参加するうえでどのような情報が欲しいですか。[複数回答可]



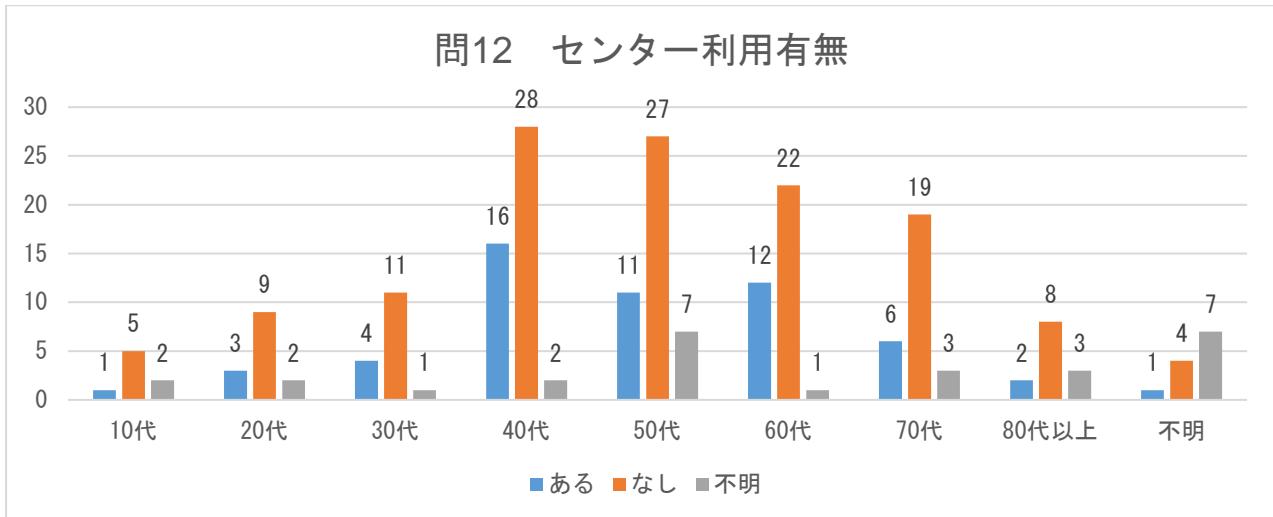
問11 あなたは今後、地域や社会とどのように関わっていきたいと思いますか。[複数回答可]



【考察】

- 「自分にできることで地域や社会と関わりたい」がどの年代も最も高いが、「好きなことや得意なことで地域や社会と関わりたい」と「新たな仲間を作りたい」と近い数値となっている。様々なスキルを持った地域の人たちといかに出会い、仲間作りをサポートしていくかが課題と思われる。

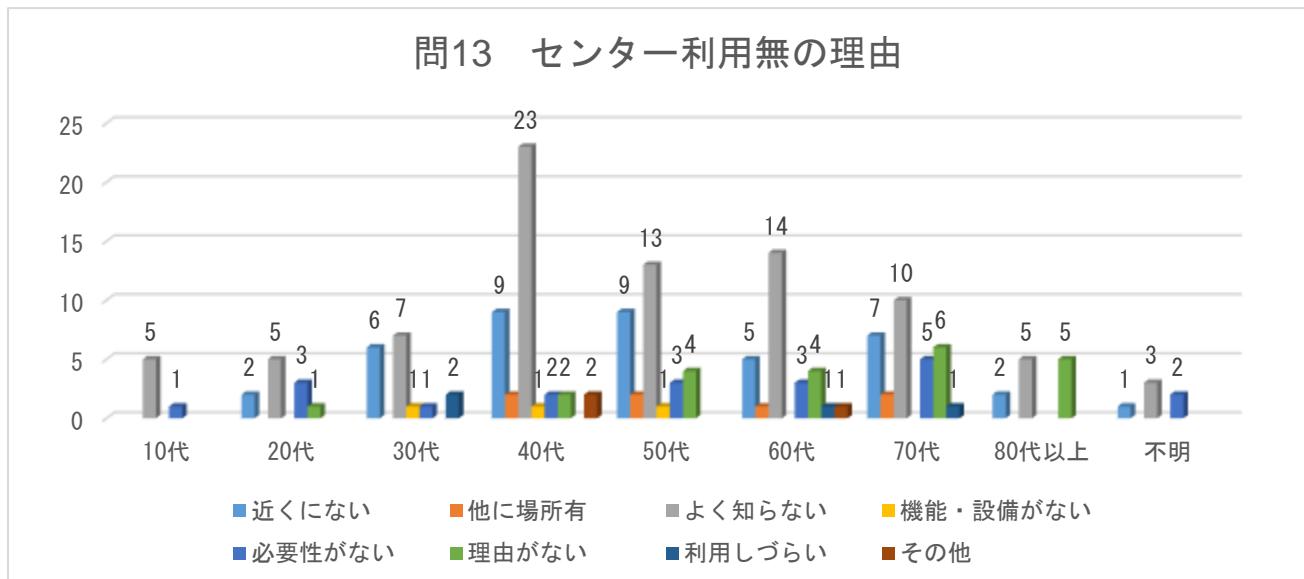
問12 市民活動支援センター（以下、「センター」）を利用したことがありますか。



【考察】

- 全体では「利用したことがある」(25.8%)、「利用したことない」(61.3%)、「無回答」(12.9%)の結果となっている。
- 職業別の傾向では「会社員」の利用「あり」が18%(13人)と最も低く、「専業主婦（夫）」が50% (10人)と最も高い。市民活動への関心や経験割合が他と比較して低い割合の「専業主婦（夫）」当センターの利用割合が他の職業より高い傾向をどう捉えるか。

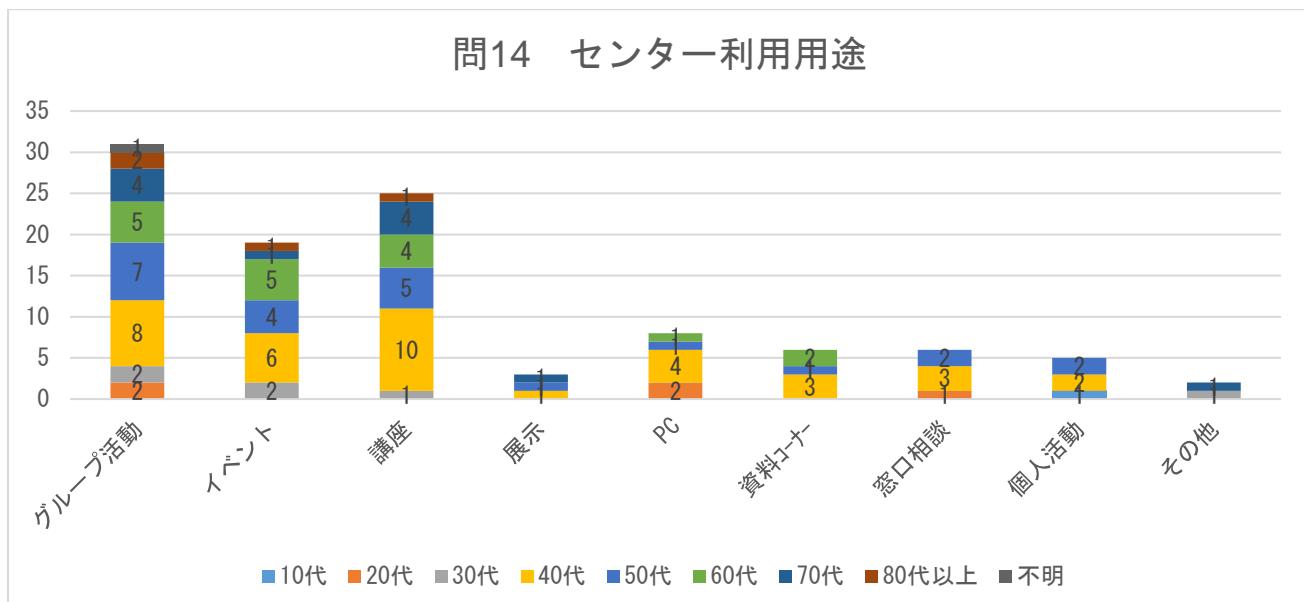
問13 【問12で「利用したことがない」と答えた方へ】その理由についてお聞かせください。



【考察】

- 「センターをよく知らない」が利用したことのない理由で最も高い。当センターに関する広報強化は課題である。

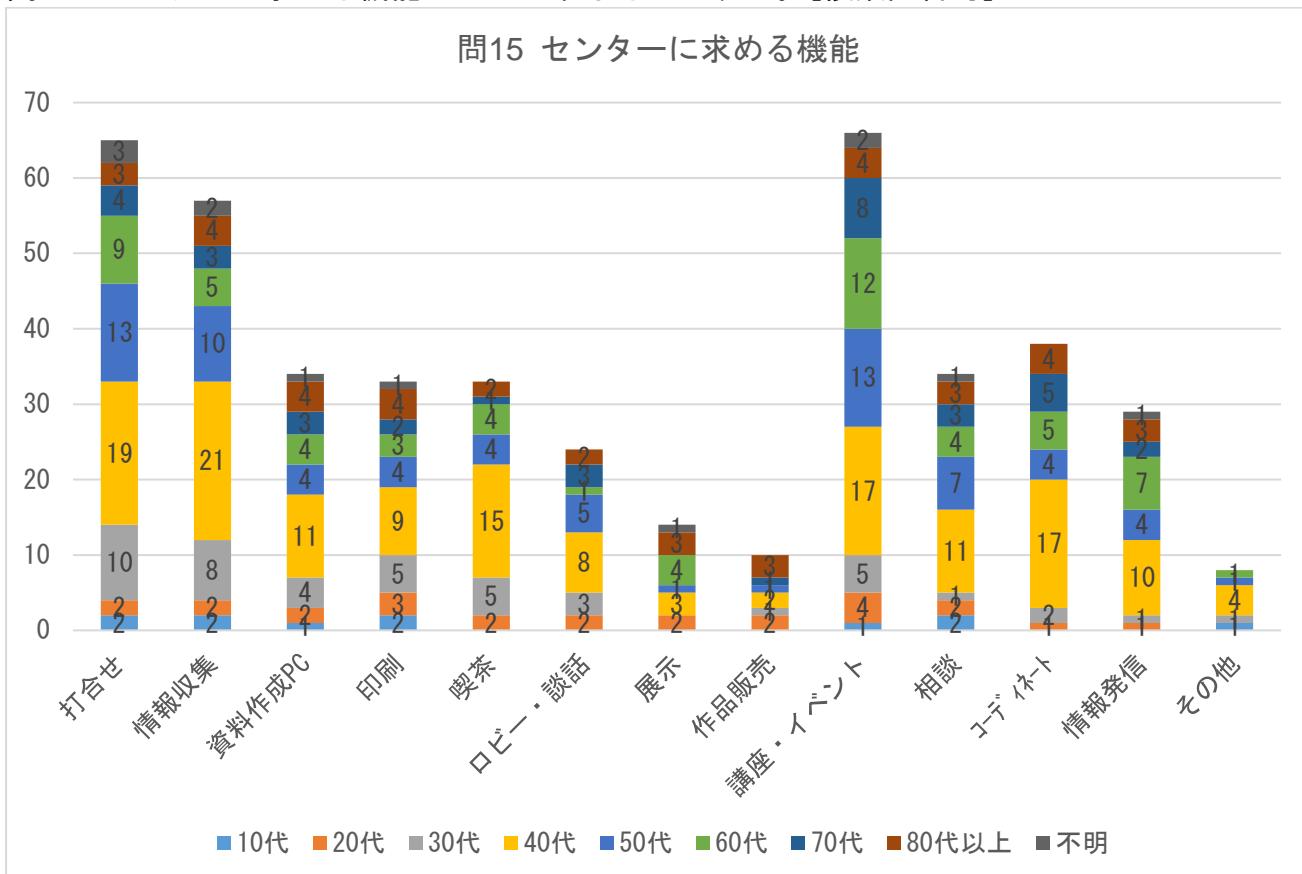
問14 【問12で「利用したことがある」と答えた方へ】どのような目的で利用しましたか。



【考察】

- 「講座」と回答した方の中には、当センター以外のセンター(男女共同参画・産業労働支援)や他団体の講座も含まれていると推察される。
- 展示や資料コーナー等が当センターにあることを知らない人も多いと思われる。情報収集、情報提供を求める声が比較的多いことも踏まえるとこうした機能の紹介と利用促進に向けての工夫も必要と思われる。

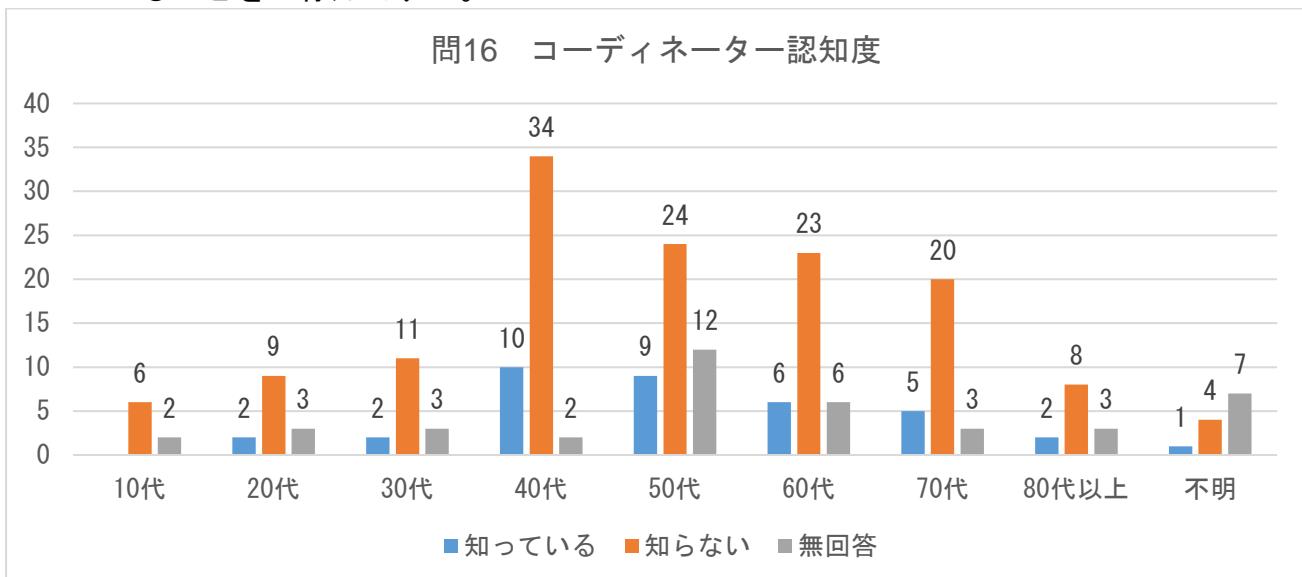
問15 センターに求める機能はどのようなものですか。[複数回答可]



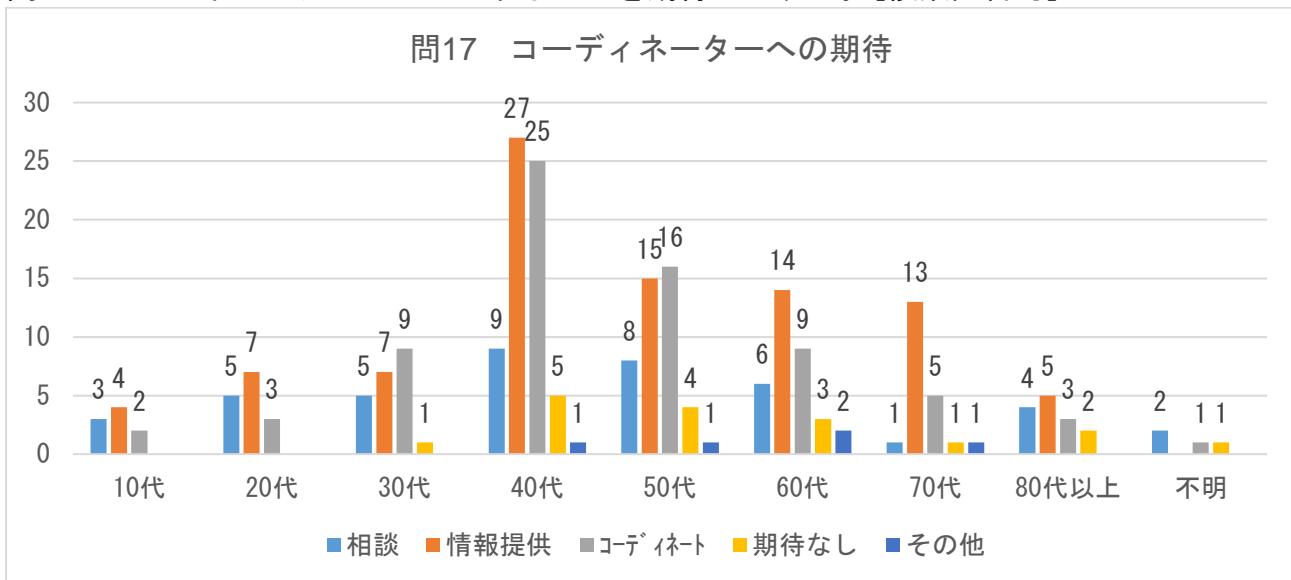
【考察】

- 「講座・イベント」と「打合せ」がほぼ同数で最も高い結果が出ている。どのような講座やイベントを求めているのかを掘り下げていく必要がある。
- 平成22年度に実施した市民活動支援に関するアンケート調査では、「情報に関する支援」が最も高かったが、今回も「講座・イベント」「打合せ」に次いで比較的高い結果が出ていることから、情報収集・情報発信の取組も力を入れていく必要があると思われる。

問16 センターにはボランティアやNPOなどに関する相談・支援を行うコーディネーターがいることをご存知ですか。



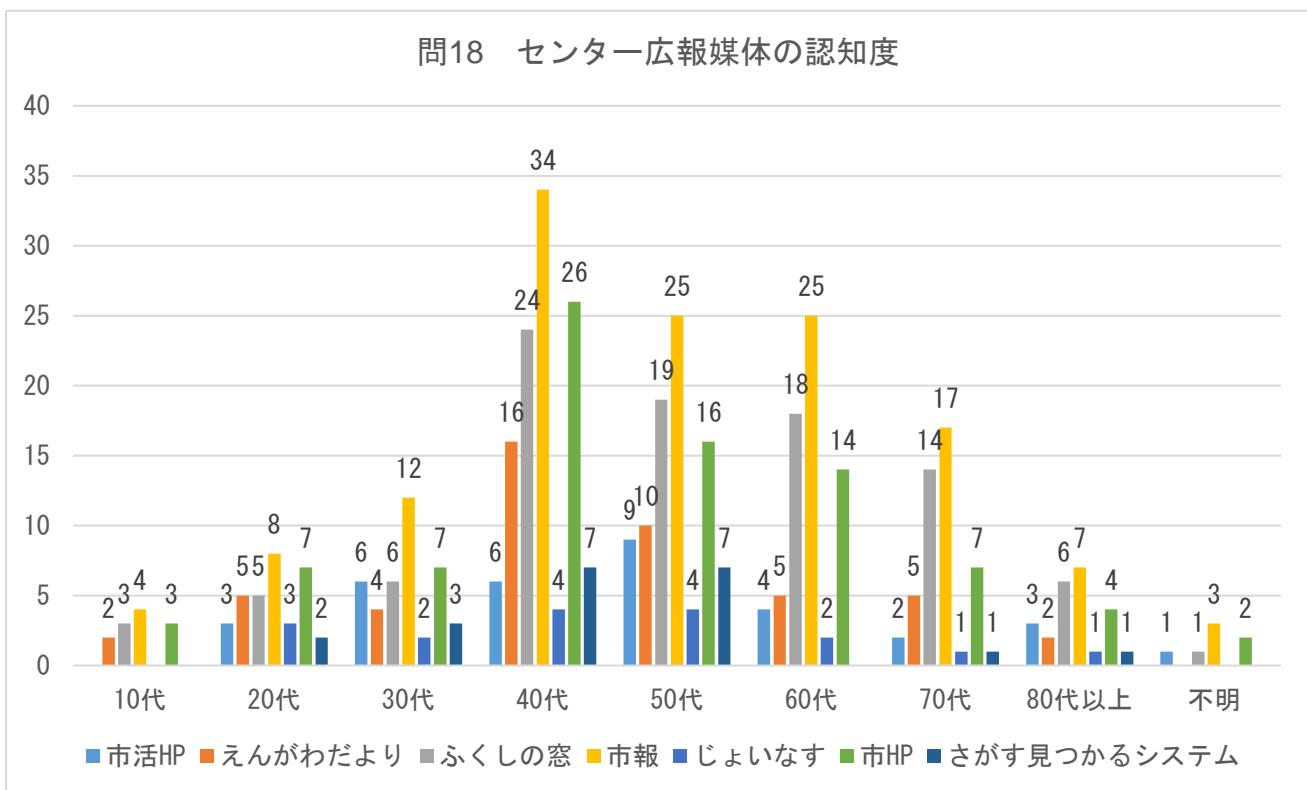
問17 コーディネーターにどのようなことを期待しますか。[複数回答可]



【考察】

- センター利用有無と同様に、コーディネーターの存在を「知らない」との回答が「知っている」を大幅に上回っている。また、コーディネーターに対して「情報提供」と「コーディネート」への期待が高い結果がでている。コーディネーターには市民活動団体やボランティアを始めとした地域の人財に関する情報の蓄積や地域の社会資源の把握や地域情報の収集等、中間支援組織の支援の基礎となる「情報力」を高めることが求められている。

問18 市民活動支援センターでは、センターホームページ、広報紙「えんがわだより」、調布市社会福祉協議会広報紙「ふくしの窓」等、市報や市のホームページ等を用いて市民活動に関する情報を提供していますが、見たこと、読んだことがありますか。



【考察】

- 回答者総数217のうち、当センターの業務で力を入れている「センターホームページ」を見たことがあるとの回答者が34(15.6%)、「えんがわだより」は49(22.6%)となっている。市民活動について、「よくわからない」「センターについてよく知らない」と回答する人が多い中、「必要な人に必要な情報を届ける」ための工夫が必要と思われる。

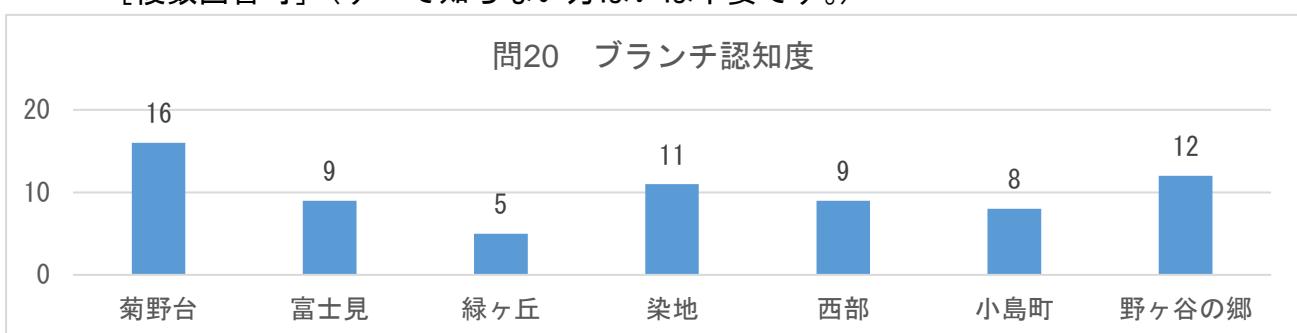
問19 【問18でいずれか1つでも「見たこと・読んだことがある」と答えた方へ】各種広報媒体に関するご感想や掲載してほしい情報がありましたらお聞かせください。

[自由記述] 別紙参照

【考察】

- ホームページについて、「わかりにくい」「内容が(高齢者福祉や被災地支援等に)偏っている」「団体の様子や雰囲気が伝わる情報を掲載してほしい」「探しやすくしてほしい」「新規参入者が活用したいものにしてほしい」「若い人たちに関心を持たせる工夫を」等の声が挙がっている。
- えんがわだよりについては、「パソコンやスマホが使えない人たちのために充実してほしい」「市民が参加できる情報を公・民に限らず紹介してほしい」「文字量が多く疲れる印象がある」「内容を整理する勇気が必要」等の声が挙がっている。
- バザー情報やイベント情報、「ゆずります」等の寄付情報を掲載してほしい。
- 市民活動支援センターホームページのリニューアルに向けての検討作業を行っているので、こうした声も参考にしながらリニューアルを進めていく必要がある。

問20 以下のコーナー（ブランチ）のうち、知っているコーナーに✓をつけてください。
[複数回答可] (すべて知らない方は✓は不要です。)

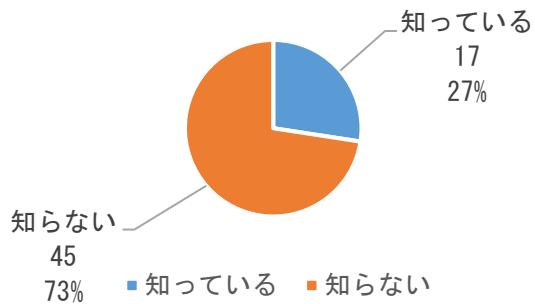


【考察】

- 全体的にコーナーに関する認知度が低い傾向。センター同様、コーナーに関する広報も課題と思われる。

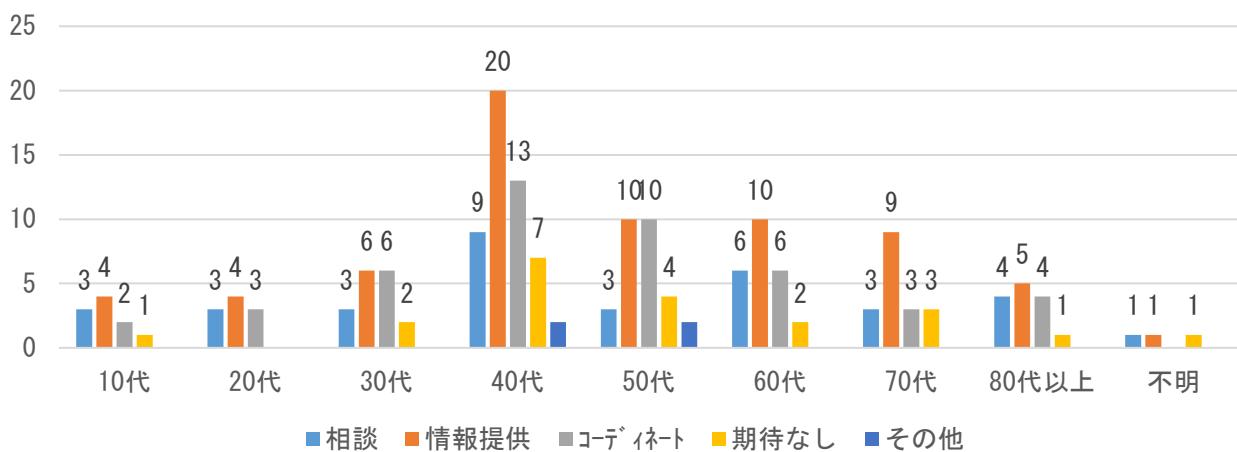
問21 【問20でいずれかのコーナーに✓をつけた方へ】各コーナーにも、ボランティアやNPOなどに関する相談を受けるコーディネーターがいることをご存知ですか。（野ヶ谷の郷は地域住民ボランティアによる運営）

問21 ブランチコーディネーター認知度



問22 各コーナーのコーディネーターにどのようなことを期待しますか。【複数回答可】

問22 ブランチコーディネーターへの期待



【考察】

- センターのコーディネーター同様、情報提供を期待する声が最も高い。

問23 市民活動支援センターは「まちのえんがわになりたい」をコンセプトに人と人が集い、交流する場を目指しています。市民活動を身近に感じられるよう、みなさまの声を聞きながらこれからも情報提供、参加の機会づくりに取り組んでいきたいと思います。市民活動支援センターについてご意見などありましたらお書きください。【自由記述】 別紙参照

【考察】

- 「何をしているのか、いまいち見えてこない」「活動内容の広報に力を入れた方がよいのでは」といったセンター広報の必要性に関する意見が複数寄せられている。中には「市民と一緒にブランディングしてはどうか」などのアイデアも挙がっている。
- 「一部の人が使っている印象」「初めて参加しようと思う人が気軽に参加できるような声掛け」など「まちのえんがわ」を目指す当センターにもっとオープンな形で運営を求める声も挙がっている。
- 「もっと市民との協働を進めてほしい」「人財発掘とエンパワーメントを目指して、自ら出向いてほしい」「偽装市民団体に対するチェックを入念にしてほしい」などセンターのアクションを求める声も挙がっている。

IV 市民活動支援センターの機能強化に向けて

「自立した市民社会の創造」の実現に向け、多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら市民の主体的・公益的な活動を支援していくには、これからどのような機能を強化していく必要があるか。今回の調査結果を踏まえ、当センターが取り組むべき課題等を整理したい。

(1) 市民活動に関する意向や参加状況から見えること

■ 「(市民活動に) 関心があるがよくわからない」市民への支援

「市民活動に関心があるがよくわからない」と回答した市民が48%と最も多かったが、この回答者の中には、「何か社会の役に立ちたい」との思いを持つ市民がいると考える。市民活動への参加のきっかけづくりとして、ボランティアガイダンスやNPO入門講座、市民活動支援特別講座等を始めとした普及啓発の取組や調布サマーボランティアやちょうふチャリティーウォーク等の参加のきっかけづくりの取組などこれまでも普及啓発を行ってきたが、今後も市民活動をもっと身近なものとして理解が広がり、深まる普及啓発や広報の取組が当センターに求められている。

■女性のパートタイム労働者、専業主婦への参加のきっかけづくり

職業別の視点で分析したところ、「関心がない」と回答したパートタイム労働者、専業主婦が他と比べて高い結果が見られた。また、前述の方々は市民活動の経験が「ない」と答えた割合も他と比べ高い結果が出ていることから、どう市民活動への参加のきっかけを作るか、創意工夫が求められる。

■調布のまちへの愛着を市民活動につなげる取組

回答者総数の約4分の3の方々が調布のまちへの愛着を「感じている」「やや感じている」と回答しているが、「参加している」「今後参加したい」の回答が37%という結果が出ている。まちへの愛着を感じている人たちは活動につながる可能性を持っていると推察する。市民交流事業「えんがわフェスタ」やちょうふチャリティーウォーク等まちの魅力の再発見につなげる取組をこれまでも行っているが、さらに活動につながりきれていない要因を分析し、その解決に向けた取組が今後求められる。

■10代・20代・30代のまちへの愛着を高める取組

また、10代・20代・30代の“若者世代”的まちへの愛着を高めるために、何をすべきか掘り下げていく必要がある。10代・20代と比べ、30代の市民活動への参加経験が少ないとことから、30代の活動参加のきっかけづくりとして、市民交流事業「えんがわフェスタ」では、対象世代の人々の声を聞き、実際に参加の機会を創る取組を行っているが、10代・20代の参加経験がまちへの愛着につながるような支援について研究を深める必要がある。

■多様な分野のボランティア活動に関する情報発信・コーディネート

「活動経験あり」と回答した方々の中で、最も多かった分野が「地域行事やイベントのお手伝い」、次いで「環境」、「子ども」と続いた。「趣味や特技を生かした活動」の回答も比較的多い。生涯学習と市民活動は表裏一体の関係であることから、従前より取り組んでいる生涯学習情報コーナーとの連携をより一層深めながら、「趣味の社会化」のアプローチを継続して取り組むと共に、当センターの情報発信においても多様な分野の情報発信を行っていく必要がある。

■市民活動に関する情報発信の工夫

市民活動への関心の高まり、参加の広がりに向けて、必要とする人に必要な情報が届くようにするために、現在準備中のホームページリニューアルを始めとした情報発信ツールの効果的な活用、既存の発信方法や発信内容の見直しや工夫が求められる。

■様々なスキルを持った人たちとの出会い・仲間づくりのサポート

問11での今後の地域や社会との関わり方に關する回答から見える、市民の「自分にできることで関わりたい」「好きなことや得意なことで関わりたい」、「新たな仲間を作っていくたい」の思いの実現に向け、人と人がつながる交流の場づくり、コーディネートが求められると思われる。

(2) 当センターの利用状況、当センターへの期待等（プランチ含む）

■「センターをよく知らない」市民へのアプローチ（センターの広報）

約6割の市民の「センターを利用したことがない」という回答で、「利用したことがない」と回答した市民の一番の理由が「センターをよく知らない」が挙げられている。プランチの認知度についてはセンター以上に低い結果が出ている。当センター並びにプランチの広報力アップが課題である。

■「センター・コーディネーターに求められる機能」

「講座やイベントの開催」、「打合せスペースの提供」「情報収集」の機能が上位に挙がっている。コーディネーターの認知度も10代を除くすべての世代で「知らない」が「知っている」を大きく上回っている。コーディネーターには「情報提供」と「コーディネート」への期待が特に高い結果となっている。これまでも「伝えるコツ」セミナーの開催や市内各所に出向いての出張講座、地域イベントへの参加協力、活動団体や支援を必要とする方々への訪問支援等アウトリーチを行っているが、中間支援組織の支援基盤となる「情報力」アップに向けた取組が求められる。

V おわりに

今回の調査の結果から、開設から10年が経過するも、いまだ多くの方々に「市民活動支援センター」が十分に認識されていない状況が見えてきています。

「何かに関わりたい」と考えている市民の皆さんに対して、「必要な人に必要な情報を届ける。」という使命を十分に発揮できていないということから、当センターの市民活動に対する情報発信、広報力など普及啓発に関する必要な取り組みにまだまだ課題があるといえるのではないでしょうか。

さらに今回の調査を見つめていくと「調布の町に愛着を感じている」ことに弱い世代が、若い人们に多く、そこからは、この町に愛着を持ってもらってこそ、自分たちの街を良くしよう、楽しくしようと多くの市民活動が生まれ、発展していくのではないかと考えさせられました。

このようにいくつもの課題が提起された調査結果を、今後、新たにスタートする当センター運営の基本となる「5か年中長期計画」の策定に市民の声として生かし、より一層市民に寄り添ったセンター運営を心掛け、職員一同努力してまいります。

また、この調査結果を行政計画に生かせるように働きかけ、市民活動が更なる充実を図れるようなまちづくりの一助になればよいとも考えます。

今回の調査にご協力いただいた多くの市民の皆様に、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

今後も、当センターの運営に様々ご意見、ご要望をお寄せいただきますようお願いいたします。

市民活動支援センター センター長 高木 直